

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000209		
法人名	社会福祉法人 未生会		
事業所名	グループホーム ラポールしらかば 2F		
所在地	京都市西京区榎原盆山15番地8		
自己評価作成日	平成27年2月15日	評価結果市町村受理日	平成27年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2674000209-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2674000209-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年3月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の暮らしの中で関わりのある人全てが「認知症の人」という考え方ではなく、「人」としての人格に視点を置き、共に生活していく中で単に支援者と入居者という関わりだけではなく、お互いに助け合い生活しているという事を心がけ関係を築いている。  
法人理念「帰化穏坐」の意味するところも実践に繋がっており、入居者はもちろん家族や近隣の方も居心地の良い空間に感じられるように取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「帰家穏坐」を基本にして、職員で話し合い考えた事業所の方針「ひとりの一人の生活リズムを尊重します。」を全員で共有し日々実践するよう心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と一緒に近所へ回覧板を持って行ったり自治会の行事に参加している。日用品や食品等日々の買い物も近隣のスーパーや商店へでかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりや会議への参加やへの理解を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催して事業所としてのサービスの取り組み状況や家族に対するサービスの取り組み状況を報告し検討したり意見交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を直接届けたり、行政主催の会議に参加し介護保険・高齢者福祉に関する情報提供等連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員会議等で議題にして検討したり、意見交換をしている。運営推進会議でも相談や意見を求め話し合いを行い出入口等を施錠しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束に繋がるような言動や支援等をミーティングや申し送り等で話し合いや意見交換を通して正しく理解する事で防止につとめている。		

グループホーム ラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加して伝達研修を行ったり、後見人に直接相談して活用方法を聞いて家族に伝える支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書や口頭で説明し理解をしていただいている。個別にも話し合う機会を持ち理解、納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月個別に近況報告を送付して支援についての意見・要望を聞いたり、アンケートを実施して意向や改善案等聞く機会を設けている。運営についての情報等は文書やしらかば通信で公開している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者等が個別で面談したり、ミーティングや職員会議等で意見や提案等聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部で毎月1回の業績検討会議にて状況報告し改善案等を検討したり、ハラスメント委員会・衛生推進委員会の会議等で話し合う機会を設け整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修開催を回覧板で案内する。希望者になれるべく参加出来るよう勤務の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会や協会等に入会して定期的に会議・勉強会・研修・親睦会等に積極的に参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族や関係者からの情報をアセスメントし、職員全員が状態を把握した上で、その方にあった関わり方を模索しながら、不安を少なく生活に慣れてもらえるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	離れて暮らす複雑な気持ちや距離を置く事での関わり方の心配ごと、ご本人の馴染みの生活の維持等、一つ一つ一緒に考えながら家族との信頼関係を築けるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人および家族の意向を聞き、今必要なサービスのいろいろな選択肢の提示と、希望があった場合沿えるよう実現に向けた対応が出来るように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の生活の流れの中で、それぞれの能力や人柄を活かし、共に暮らしていることが自然に成り立っているという関係であるように意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来園時や電話、手紙などで気になる様子や変化を細かく報告し、家族とご本人の状態を共有しながら、ご本人の生活を一緒に支える様に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連携しながら友人と出かけたり、入居前に暮らしていたところへ行ったり、ご近所の方がいつでも訪ねて来られる様に配慮している。馴染みの美容院は本人の希望の日に予約し送迎している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や同性、異性によっても対人関係は変わってくるが相手を尊重しつつ関わりを持とうとされたり、手助けしようとするとき、注意しながら見守り支援している。		

グループホーム ラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去、または逝去されたあとも近況を報告に来園されたり、お電話を頂いたりしている。また、家族会に参加していただき、入居中のご家族と交流し率直な意見を頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴の情報と関わりの中で言動や表情から本人が伝えられない場合や気遣い等がある場合もくみ取れるように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や家族が来園された時にお聞きしたり、日々の関わりでの会話から新しい情報を得たりして職員で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	人によつての生活のリズムの違いや体調、気分の変化には特に注意し、有する力も日々変化しつつあることを把握し無理のない支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度のモニタリングにむけて、日々の関わりでの気づきや現状を付箋等へ書き、ご家族にも伝え意見を聞き、ケース検討からモニタリングの実施、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中での本人が発せられた言葉や表情、ケアの実践での気づきを個別記録に記入し、職員全員が共有出来るように付箋にも記入して、個々のニーズの見直しに活かせるように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事情で急な送迎があったり、病院受診や本人希望の外出や買い物にも臨機応変に対応している。また、家族の希望で衣類や身の回り品等本人と一緒に買いに行くこともしている。		

グループホーム ラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご自身の暮らしを実感していただけるように配慮しながら、地域の方から発信される催しに参加したり楽しみながら個々の力を出して頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医の受診はもとより、本人と家族の希望、要望を尊重しながら訪問医を交えて話し合い、安心して医療が受けられるように支援している。24Hオンコールの対応と週一回の往診または訪問看護に来て頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回のホームDrの訪問時にクリニックから預かっている記録表に一週間の状態を記入し、看護師に報告、相談しながら指示をもらい支援に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的な訪問で利用者が不安にならないようにしたり、治療の状況や経過、退院に向けての情報交換等、連絡を密にし混乱なく退院後の日常生活に戻るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初の段階から重度化した場合や終末期に向けての本人や家族の希望を聞き、こちらの出来ることを説明しはなし合い方向性を確認するが、いつでも見直しが出来、一緒に考えていける関係性が築けるように努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは家族の意見も反映し、利用者ごとに急変時の対応を個別化し、全職員が対応出来るように訓練し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主的な災害訓練等を実施し、地域の広域防災訓練にも参加し緊急時の避難経路の確認や非常持ち出し袋、利用者の避難方法等の周知に努めている。		

グループホーム ラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格、性別、趣味、嗜好等の違いを尊重し、馴染みの関係が成り立っていると感じていても、人と人との礼儀をわきまえた関わりを意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの会話の中で本人の思いや希望はくみ取れるように努めているが、その都度意思決定や選択ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の過ごし方は気分や体調を見ながら、提案したり一緒に考えたりしている。また、個別の希望にも出来るだけ対応出来るように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望は最優先で、難しい場合も好みの物を把握できるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスも重要ではあるが、食べたい意欲が大事と考え、献立を決めるときから楽しめるようなアプローチを心がけ、下ごしらえや盛り付け等も一緒にしたり、配膳下膳も出来る方は自分のペースでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量の把握、変化に注意しながら本人の状態の応じて柔軟な対応が出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ、見守りながら実施し、自分では出来ない場合は援助している。毎週一回訪問歯科のDrに来てもらい歯や義歯の状態を診てもらい指示いただいている。		

グループホーム ラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムに合わせて、決して無理強いせず、出来る事は自分のペースでもらい、手伝う時も一緒にしているように負担にならない様に注意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の工夫や水分摂取量に注意し、日々の体操や散歩など身体を動かすことに気を配り、出来るだけ自然な排便を促せるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の入浴日は設定してあるが、本人の気分、体調、希望を聞き、柔軟な対応が出来るように努力している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でも共有スペースでも、くつろげる空間を意識している。個々の生活習慣で起床時間や就寝時間も違うので尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時には薬局からの説明を聞き、利用者の服用中の状態を報告する等、情報を共有しながら常に症状の変化に対応出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中での本人の得意な事や好きな事を把握し、やりがいや達成感を感じてもらえるように支援している。また、外食やドライブ等外に出かける機会も設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人との外出の時は最寄りの駅まで送迎したり、喫茶や外食は勿論、地域のふれあいサロンや行事にも希望を聞きながら出掛けるように支援している。		



グループホーム ラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら、小額のお金を所持してもらったり、預かり金の中から買い物で自分で払っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話はいつでも居室へ取り次いだり、自分からも自由に掛けて頂けるようにしている。手紙やはがきも常に準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	人よっての心地よさの違いはあるが、それぞれが不快に感じない配慮を心がけている。共有スペースでは季節を感じてもらう工夫を考え、四季を意識できるように努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置や畳のスペースを作り、思い思いの時間が過ごせるように配慮し、天気の良い日は中庭や玄関ポーチで簡単な食事やお茶が楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使われていた馴染みの家具や雑貨を使用し頂き、配置も本人や家族と相談しながら、落ち着ける空間づくりに努め、本人の気分や状態の変化等での模様替えにも柔軟に対応出来るように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは判りやすいように表示したり、移動の空間をなるべく広くとる工夫をして一人でも安全に活動出来るように配慮している。		